

「嘉納治五郎師範の理念」と「新潟県柔道の方向性」



講道館柔道創始者、嘉納治五郎師範は柔道修行の目的は「世を補益する」＝「社会に貢献する」ことであり、そのためには「身体の鍛錬」と「精神の修養」を行い、自己の心身を自在に操作できるようにならなければならないと述べている。

「精力善用」とは自己の向上により行われることであり、「自他共栄」とは社会や他者との関わりの中で行われることである。柔道の修行を行うことにより、「身体の鍛錬」と「精神の修養」が行われ、人格が形成されていく。そのような嘉納治五郎師範の理念が共感を呼び、世界中に柔道が普及してきた事実がある。

しかしながら、現在の柔道は、先人の築き上げてきた伝統の上に胡座をかき、柔道の発展よりも自己の利益を優先するような風潮が少なからずあったということは否定できない。その結果、柔道は少しずつ衰退し、気が付いたときには柔道人口の減少に歯止めが効かず、それに対する様々な取り組みが行われてきたにも拘わらず、その成果は一向に現れていない。

新潟県柔道連盟では、嘉納治五郎師範の理念に立ち返り、失われた価値をもう一度取り戻すために指導者が一丸となり、「精力善用」「自他共栄」の精神で地道に努力を重ねることが、最も重要なことだと考える。新潟県柔道指導者は嘉納治五郎師範の掲げた柔道理念を今一度確認し、本来の柔道の価値を伝えるべく、個々のオリジナリティを生かし、自己の向上に努めながらも日々の指導に携わって欲しい。

若き指導者への檄として

令和4年3月 新潟県柔道連盟